

茗溪学園中学校高等学校

茗溪の文武両道

教務部長 田代 淳一

日本の多くの中等学校（中学校・高等学校）が文武両道を校是として謳っています。
茗溪学園もそのひとつですが、“ひとりの生徒の中に”文武両道を築くことを目標にしています。

中学・高校のスポーツ活動

中学校・高校のスポーツの祭典は大きく分けて年2回あります（種目によって多少異なりますが）。春～夏にかけての総合体育大会（総体。国民総合体育大会の一環として県単位で予選＝県民総合体育大会＝を行い、全国大会、および国民体育大会＝国体＝につながります）と、秋～冬にかけての新人体育大会です。このうち、3年生が主体になり夏に全国大会が行われる総合体育大会での活躍が何といても運動部の目標であり、夢なのです。

これらの大会は、中学校は中学校体育連盟（中体連）、高校は高校体育連盟（高体連）が主催し、全国の公立学校と、ある程度の私立学校が加盟しています。ある程度、と言ったのは高校はほとんどの私立高校が加盟していますが、中学校は加盟していない私立学校も結構あります。それは加盟することで結構大変なこともあり、進学実績向上を至上命題としている学校にとっては余計な労力になってしまうからです。この辺の事情は本誌第14号（2007年5・6月号）に書かせていただきました。

私が募集活動をする際にいつも違和感を感じているのは、学校選択の際の保護者の関心事に、この中体連高体連に加盟しているか、どのような実際の活動をしているのか、が進学実績と比べるとほとんど入っていないことに対してです。入学後お子さんがどのような学校生活を送ることになるか、充実した活動を行えるかどうかこのことは非常に大きな影響があるのにもかかわらず、です。いうまでもなく、子供達は生身の人間です。精神的に成長する過程で様々な疑問も抱きますし、反発や不満も持ちます。心身ともに素直に育っていく子ほど恋もしますし、心のエネルギーを思う存分発散させたい、自己実現したいと願います。このような思春期に、勉学以外にも打ち込める何か、自分を眺める別な評価軸を持っているほうが明らかに健全です。

茗溪の文武両道

今年の茨城県の中学校総合体育大会の総合成績で、茗溪学園は女子の部で1位となりました。4年前は男子の部で1位となりました。どの部活動も活躍していますが、今年は特にバドミントン部と剣道部が女子で団体優勝、水泳部でも関東大会出場が影響したようです。男子も体操競技で個人優勝や剣道男子5位。他に硬式テニス部も7年連続で優勝していますし、茗溪の看板クラブ、ラグビー部も優勝していますがこれは中体連にない種目ですのでカウントされていません。

当然のことながら、このように県で1位になった選手、関東大会や全国大会に出場していく選手たちも、勉強面で「特別扱い」されることは一切ありません。

私立学校によっては、このような選手をスポーツ特待として学習面や進級面で「配慮」していたり、公立学校でも「あの生徒はその種目で〇〇高校に推薦入学するから」と特別扱いされている例をよくみかけます。

そのような考え方もあっていいとは思いますが、茗溪学園は違います。スポーツを通じて自己実現のある面を達成しながら、同時に将来の夢を実現するための学力もつけることを要求します。小テストや定期試験で一定の基準点に達しなかったら、たとえ県優勝チームのエースであろうと大会の前日であろうと補習や追試から逃れることはできません。放課後に部活動に行きたければ、日々しっかり勉強することが求められます。この体験を6年間たたきこまれるのです。

茗溪生の文武両道と大学進学

こういう生徒たちがどういう進学先に進んだかをお話しないと説得力に欠けますね。

まずは「普通の運動部」として卓球部の例を紹介します。（実は私が卓球部の顧問です）卓球部は中学では市大会を勝ち進んで地区大会へ。県大会は届くか届かないかのレベル（このところ、ずっと惜しくも届いていません）、高校も地区大会で良くて3位程度、県大会でも途中で負けてしまうレベルで